

# 白布ヶ丘だより 1月

…学校と家庭・地域の架け橋…

発行 栃木県立真岡高等学校

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

TEL 0285-82-3413 FAX 0285-82-2913

2017年も昨年同様穏やかで暖かな年明けとなりましたが、中旬になり一転、寒波がやって来ました。1月17日は22年前、あの阪神淡路大震災が発生した日でした。厳しい寒さとともにあのときのことを思い出す人も多いのではないのでしょうか。現在の真高生がこの世に生を受ける前の出来事ではありませんが、その後起こった中越地震や東日本大震災とともに今も尚、そのときの教訓が語り継がれています。

先日、神戸市の灘中学・高校の生徒達が地元の小学校で震災や防災の授業を行ったという記事を目にしました。「震災を経験していない僕らが伝えていいのか」という葛藤もあったなか、「経験してなくても、つたえていかなあかん。」という同校元教諭の前川直哉先生の指導を受け、実行に移したそうです。前川先生はご自身が灘高校の3年生の時に阪神淡路大震災を被災し、尼崎市の実家の半壊や学校が遺体安置所になる等の経験をしたそうです。「こんな時に勉強していいのか。」と気持ちが揺れたとき、当時の担任教諭からかけられた言葉に励まされたそうです。「こういうときにこそ学ぶんだ。形あるものは壊れても、学んだことは壊れない。」その後、大学・大学院進学、母校への教員としての帰還、東日本大震災後のがれき撤去ボランティア参加と経歴を重ね、平成12年3月から同校の生徒達と「東北訪問合宿」を続けています。今回の授業の教師役はこの合宿への参加者達が担いました。先生は現在福島県に移住し、「ふくしま学びのネットワーク」という一般社団法人を立ち上げ、中高生らに向けたセミナーや勉強合宿を開催しています。

この記事により、改めて「学び」の意味を考えさせられる機会を得ました。師から弟へと受け継がれていく「学び」の連鎖、伝統ある本校でも様々な場面で展開されていることとは思いますが、真高生もそれぞれに、師や友とともに折に触れて「学び」の意味を認識していくことを期待しています。短い3学期ですが、3年生はいよいよ本番の受験を迎え、人生の次なるステージに向かって大切な選択が待っています。1・2年生は一年のまとめを行い、次の学年への意識を高めていく重要な時期です。日々、良い緊張感をもって過ごしてください。

## 第3学期始業式

1月10日(月)、厳寒の講堂において、平成28年度第3学期始業式が行われました。校長辞で菊地校長はまず、カンザス育ちのコガラ(野鳥)が蓋のついた透明の容器に入ったえさを取り出すことができなかつた一方で、アラスカ育ちのコガラは難なく蓋を取り、中のえさにありついたという実験の例を引き、厳しい環境で育ったものが生き方を工夫し、困難を乗り越えていく力を身につけるものであることを生徒達に説きました。あわせて、登校時に車で送ってもらってきた真高生が、家人が自分の自転車を車の荷台から降ろしているあいだ助手席に座ってスマートフォンを操作していた情景を見た近隣の住民からの嘆きの声を紹介し、カンザスの鳥になる恐れのある事例であると話し、この件についての一考を促しました。

また、「意識」が変われば「行動」が変わる。行動が変われば「習慣」が変わる。習慣が変われば「人間」が変わる。と説き、変化の時代を自立して生き抜く力を身につけた人間になるために、生徒一人一人の意識を変える努力をしてほしいと訴え、学年の最終学期を迎えるにあたっての指針を示しました。

## 感謝状贈呈

始業式に先だって、昨年11月に人工芝グラウンド、陸上競技用走路の完成の時期に合わせて、高跳び競技用のマットをご寄付いただいた田尻健司様、田尻和子様に対し、校長より感謝状を贈呈しました。

贈呈式に来校され、感謝状を受け取られた田尻健司様は、ご挨拶で、「今回は縁あって、学校の教育活動の一助となればと思い、寄付をさせていただいた。『糸』が何本も重なって太くなる

と『縁』になり、『縁』が重なると『絆』になる。寄付した教材を存分に活用して真高生同士の『絆』がますます深まることを希望しています。」という内容のお話をいただきました。生徒達も万雷の拍手で感謝の意を表しました。



## 平成28年度文武両道賞 総合第1位は2年5組

第3学期始業式に続いて、平成28年度文武両道賞の授与式が行われました。今年度の文武両道賞は2年5組に決定しました。この賞は本校生のモットーである「文武両道」を顕彰したもので、校内の各種大会(体育大会・駅伝大会・マラソン大会・合唱コンクール)の成績や読書感想文の提出率と受賞数、年間の出席率などを点数化して合計し、総合1位のクラスを表彰するものです。

今年度は総合1位がめまぐるしく入れ替わる激戦でした。校内体育大会で総合優勝した3年5組が読書感想文も2位になり総合トップをキープ、9月になると合唱コンクール優勝の3年

1組がその時点で総合トップに躍り出ました。その後マラソン大会で1位を獲得した2年5組が総合1位の座に着き、駅伝大会も制して出席率を加えた総合順位でも1位をキープし逃げ切りしました。2位には分野1位の獲得こそなかったものの、各分野で着実に上位をキープした2年4組が入り、1年生ながら読書感想文とマラソン大会で上位に食い込んだ1年3組が2位に1点差の3位となりました。

本校は褒賞を通して文武両道の実践を奨励しており、他にも、野澤賞（最高学年で人物・学業において優秀な者を毎年10名程度表彰）、文武両道奨励賞（3年間文武両道に励み模範となった者。毎年20名程度）などの賞を設けています。



## 大学入試センター試験

1月14日（土）、15日（日）の2日間にわたって大学入試センター試験が作新学院大学を会場に実施されました。本校からは197名が受験しました。

試験前日には、多目的ホールにおいて事前指導が行われ、石塚進路指導部長から試験前最後の確認および指導が行われました。また、菊地校長からは、これまでの成果を遺憾なく発揮してほしいとの激励の言葉があり、「・・・であるかっ!」「そうだあっ!」の檄も飛びました。



試験当日は、進路指導部・3学年担任などの先生方が会場に激励に訪れました。担任から合格を祈念した合格飴をもらった生徒達は、さらに気合いを入れて試験場に向かいました。

3年生はセンター試験後の自己採点の結果とこれまでの学習の成果や過去問に対する手応え等を勘案し、担任の先生との面談を経て受験国公立大学を決定し出願を行っている最中です。前期・中期・後期と最大3校の国公立大学の受験もすでに計画を済ませた私立大学の受験も含めて計画をしっかりと立て、後は最後までやり切るのみです。

「現役生は最後の最後まで実力が伸びる」と

言われます。実際、後期までしっかり粘って、見事に志望校合格という栄冠を手にした先輩も少なくはありません。3月中旬までの長丁場になりますが、可能性を信じて、高校生活最終盤の時間を有効に活用して希望を実現してほしいと願っています。

### ○センター試験後の主な日程について

- ① 正解等の発表 1月14日（土）・15日（日）  
※翌日の新聞に問題と正解が発表されました。また、予備校等のホームページには試験当日から、順次問題や正解が掲載されました。1・2年生も是非確認しておいてください。
- ② 自己採点 1月16日（月）
- ③ 平均点等の中間発表 1月18日（水）
- ④ 得点調整有無の発表 1月20日（金）
- ⑤ 追試験 1月21日（土）・22日（日）
- ⑥ 国公立大学出願（前期・中期・後期とも）  
1月23日（月）～2月1日（水）
- ⑦ 平均点等の最終発表 2月2日（木）予定
- ⑧ 国公立大学前期日程試験 2月25日（土）から
- ⑨ 同 中期日程試験 3月8日（水）から
- ⑩ 同 後期日程試験 3月12日（日）から



## 行事予定

### 1月

- 27日（金） 進学指導会（2年 LHR・総合）  
奉仕作業（1年 LHR・総合）  
進研学力テスト（2年）
- 30日（土） 土曜開放  
進研学力テスト（1・2年）

### 2月

- 1日（水） 平日課外
- 7日（火） 大掃除（5限～、終了後放課）
- 8日（水） 特色選抜（生徒休業）
- 9日（木） 平常授業（1・2年）  
第2次特別時間割（3年）
- 10日（金） 進研マーク模試（2年）
- 11日（土） 学研ハイレベル模試（1年希望者）  
進研マーク模試（2年）
- 13日（月） 特色選抜事務（生徒休業）
- 17日（金） 学校評議員会
- 18日（土） 土曜開放
- 21日（火） 学年末テスト（～24日）
- 27日（月） 卒業式場作成・大掃除（5限～）
- 28日（火） 卒業式予行・同窓会入会式  
「白布ヶ丘PTA通信」発行